

令和 5 年 6 月 24 日

生駒市長 小紫雅史 様

東生駒南自治会

会 長 秋 山 眞

壱分北地域大規模開発における幼児児童生徒及び地域住民の 安全確保について要望書についての「回答に対する意見書」

平素は生駒市政及び自治会活動についてご理解ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

過日、生駒市東地区自治連合会長、同連合会各自治会長による「壱分北地域大規模開発における幼児児童生徒及び地域住民の安全確保についての要望書」を提出いたしました。このことについて、令和 5 年 3 月 27 日付で生駒市長より回答を頂戴いたしました。

私達は生駒市の専門家が行政指導で接続場所の検討、検証いただけると期待いたしました。が、今回の回答は現状計画、幹線道路接続が前提の回答で残念に思います。

東生駒南自治会は接続場所の変更を要望しています。今回の回答からも我々が申し上げている、危険、事故が起こりやすいと生駒市が認識していることだと理解しました。

この回答について精査いたしました。ご回答の内容と現実には大きな乖離があります。

以下いくつかの問題点をあげてみました。

1. 開発計画について

当自治会は開発計画そのものについて反対しているのではなく、生駒東小学校西に 12m もの幹線道路を接続するのは、幼児児童生徒及び地域住民の生命と安全に重大な懸念が生じているので、別ルートの道路を計画してほしいとの立場である。

自治会住民の素直な思いとして、新規開発で、現状住宅地への接続場所が小学校の西側を選ぶことは考えられない。しかも、この場所は学童保育の教室の正面である。

いろいろ検討されたのなら、検討内容について具体的な根拠を示していただき、生駒市から直接、自治会への説明をいただきたい。公開説明会などで第三者の見解を知りたい。

2. 地元自治会との合意形成について

「市関係各課との協議、地元自治会との一定の合意形成も進み開発計画の熟度が高まってきている状況。今後、事業者から開発許可申請が予定されている。」とあるが、当自治会は「生駒東小学校西に幹線道路を接続に反対する。別ルートの道路を計画してほしい。」の一点に絞り要望をしている。したがって合意形成はできていない。

出席者がほとんどいなくても、事業者の地元説明会の回数をカウントして、合意形成されたとしているようだが、2 回目も 3 回目も当自治会の課題である「幹線道路は変更なし」との結論であると開発業者から聞いているので出席していないのである。

2022 年 3 月の都計審の委員のご意見で「アリバイ作りとして説明会を設けて、何回説明したので合意形成できたと判断してはいけない」と発言された通りである。

生駒市長マニフェスト ～「みんなで創る！日本一楽しく住みやすいまち いこま」を目指して～ 誰もが楽しく暮らせる日本一の健康と安心のまち「いこま」は一体どういう意味なのか。

3. 交通安全対策案(通学路)について

①生駒東小学校及びなばた幼稚園周辺の生活道路について

○通過交通の進入対策として、部分的な狭窄(きょうさく)、物理的に狭くすること)により、ドライバーが心理的に進入しづらい状況を作り出す。

◇なばた幼稚園からバス通りまでわずか約 400m の道幅 7.2m の道路に8ヶ所、50m に1ヶ所狭窄杭が打ち込まれ、3メートルの道路幅になります。宅配の車、介護訪問の車、救急車、消防車は入れるのでしょうか。自分の車でさえガレージに入れられない住宅もできる。

◇第6公園からポストのあるバス道路まで約 200m の道幅 8m の道路に杭が打ち込まれ、車道が5mになりセンターラインもなくなる。

◇杭を打たれる通りの住民は猛烈に反対することは必至である。

◇住みにくい住宅になり、地価も下落する。



通りにくくなった道路を避けて、残りの7本の東西の道路を車が分かれて通り抜けするだけで、住宅内に流れ込む車の台数は変わらず、住宅内のあちこちで交通事故が発生し、死傷者が出るかもわからない。全く交通安全の対策にはなっていない。

開発地域の発展と利便性だけを考慮して、既存地域にそのためのリスクを負わせるのは言語道断である。

②平成29年から指定されているゾーン30の道路は、先駆けて実施している、本市交通指導員による登下校時を中心とした立哨(りっしょう)指導に加え、今後の交通状況に応じて、さらに警察との連携強化を図るとともに、本市職員による立哨なども実施していく。



◇生駒市交通指導員は生駒市で3名しかおられないが、この3名が小学校に直結するこの交差点に、未来永劫、立哨指導をしてくれるのか。

◇生駒市職員も未来永劫、立哨指導をしてくれるのか。

◇その場限りの逃げ口上は許されない。

4. 生駒東小学校通学路について

○日頃ご尽力いただいている地元の通学の見守りボランティアの方と連携し、対策強化を講じる。



地元の通学の見守りボランティアも高齢化しているうえ、協力者もなかなか集まりにくい現状がある。

※ 登下校時の立哨にせよ、通学見守りボランティアにせよ生駒市としての本気度が全く感じられない。その場しのぎで、できもしない立哨指導の提案も現状から実現不可能であることは明白である。結局は地域に押し付けになるのは確実である。

何かトラブルがあって生駒市に相談しても、当時の担当者がおられません等々、誰も責任が取れない状況が目に見えている。